



学びの庭

甲府市立甲運小学校
学校だより第8号
平成29年10月25日
(文責：勝村 正樹)



平成29年度全国学力・学習状況調査と 質問紙調査の結果についてお知らせします

平成29年度の全国学力・学習状況調査を4月18日、6年生を対象に国語・算数の学力・学習状況調査と児童質問紙調査とに分けて行いました。

全国学力・学習状況調査結果の山梨県の平均と全国の平均は次のとおりです。

	国語A正答率	国語B正答率	算数A正答率	算数B正答率
全国平均	74.8	57.5	78.6	45.9
県平均	74.0	56.0	77.0	43.0

*表内の数字は%

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、正答率の±5%の範囲にある場合は、山梨県平均および全国平均とほぼ同等と考えています。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析(国語)

○全体の傾向

「A区分問題」

・国語Aでは、山梨県平均、全国平均とほぼ同等ですが、やや下回っています。

「B区分問題」

・国語Bでは、山梨県平均、全国平均とほぼ同等です。

[詳細について]

国語A(基礎的な知識)では、漢字の読みはほぼ良好でしたが、「事務室前」の読みと「参加たいしょう」「4年生のきぼうしゃ」「箱が置いてあります」の漢字の書きには課題がありました。今年度の漢字の問題は、調査問題の終わりに設定されていて最後までやり切れなかったためか、無解答率が高かったことも今後の課題です。「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く」での正答率は、県・全国平均より高く、よくできていました。しかし、「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」や「手紙の構成を理解し、後付けを書く」の正答率が県・全国平均に比べて低く、課題が残りました。

国語B(活用力)では、「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」問題での正答率は、県・全国平均に比べて高く、よくできていました。一方、「目的や意図に応じ、引用して書く」「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」問題での正答率は、県・全国平均に比べて低く、また、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」問題の正答率は、全国平均に比べて低くなっていて、今後の課題といえます。



平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析(算数)

○全体の傾向

「A区分問題」

- ・算数Aでは、山梨県平均、全国平均をやや下回っています。

「B区分問題」

- ・算数Bでは、山梨県平均とほぼ同等ですが、全国平均をやや下回っています。

[詳細について]

算数A(主として知識)では、「 $10.3+4$ 小数と整数の加法の計算をすることができる」問題の正答率は、全国平均を超えていました。しかし、「 $6+0.5\times 2$ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」問題での正答率が低く、課題があります。「 $5\div 9$ の商を分数で表すことができる」問題での正答率にも、課題が残りました。また、「立方体の面と面の位置関係を理解している」「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる」問題においては、県・全国平均に比べて無解答率も高く課題であるととらえています。

算数B(主として活用)では、「料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」問題の正答率は県・全国平均に比べて高く、よくできていました。一方で、「13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く」「示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ」「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ」問題での正答率が全国平均に比べて低く、課題であることが明らかになりました。

これらの結果を受け、今後学校では、

- ・週3回行っている朝学習をより充実させていきます。
- ・各学年ごとに「甲府スタイルの授業」を目指して研究を進めていきます。さらに各自が取り組む研究教科以外にも、情報交換を行う中で指導力の向上を図ります。
- ・「児童同士の学びあい」の成立を意図した授業内での意見交流場面を積極的に設定していきます。
- ・全国学力学習状況調査の結果についての学習会を校内研究の時間を利用して行い、いかにして授業に反映させていくかを全職員で検討し、実践していきます。

6年では、具体的な取り組みとして

- ・学力・学習状況調査の結果から児童がやや苦手としていると思われる国語や算数の知識を問う問題について改善を図るため、定期的に過去に学習した内容の復習を行うなどの手立てを考えていきます。
- ・ノートの取り方については、めあてやまとめを意識した「甲府スタイルの授業」を取り入れ、より効果的な手法を実践し、相互に共有できる機会を設けていきます。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析(質問紙)

児童質問紙調査では、子どもたちの生活習慣やものの考え方についての質問がありました。「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」は非常に高い結果でした。成功体験を多くもつ児童の割合が高いといえます。また、「家の人は、授業参観や運動会などの行事に来ますか」についても「よく来る」の回答が多くありました。

学校ではこれらの結果を踏まえ、子どもたちがいろいろな場面で成功体験を積み重ねていけるような授業や行事を工夫し、自分に自信の持てる子どもたちを育てていきたいと考えています。生活習慣や学習習慣は、ご家庭の協力がなければ確立できません。今後とも家庭と学校が協力して子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

詳しいことについては、本校のホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

